

ヘンテコな軽自動車

蔵王で生活していた或る日、仙台に用事があり車で出掛けた。

蔵王町と言えば仙台より遠く雪が多く降る、不便な土地に思われている。でも蔵王の自宅は仙台に比較的近い。境界線まで車で十分、仙台駅までは四十分位である。仙台全図に私達が住む小村崎部落が地図の片隅に顔を出している。知らない人に「蔵王は雪が多く寒いでしょ」「遠くて不便でしょう」と何時も聞かれる。「仙台と変わりないですよ」「仙台の地図にも載っていますよ」と答える。

自宅を出て二分足らずの所に谷山温泉がある。温泉の百米程手前に深山幽谷で紹介した、谷川から流れている小川に橋が架かっている。橋は少し高くなっていて、見通しが悪く走行に危険な場所である。事実私のいとこが橋の上で追い越しを掛け、前方からきた車と正面衝突、暫く入院したことがある。

その日橋の近くを走っていたら、猛スピードで追い越して行った軽自動車があった。昔のボンネットバスを小さくしたような珍しい車だった。軽自動車にしては鼻つぱしが長く低い。それに全体的に、丸みが無く角張っている感じだ。

「ああいう車を好きな物好きが居るのだな」等と岡焼きしながら田舎道を仙台に向け走っていた。追い越された地点より一キロ程走ったら、道路脇の田圃の真ん中に自動車が見えている。よく見ると先程追い越して行った、あの軽自動車である。車からスーツ姿の若い青年が、靴を両手の持ち、手を水平に、まるで綱渡りでもするように、泥んこの田圃をヨチヨチ歩いているではないか。

田圃は道路より五十センチ位低く、畦があり一米位ジャンプした事になる。田圃の真ん中までは十米位ある、それに泥んこである、ひっくり返りもせず、よくも上手に代掻き馬ならぬ、車になれたものだと感心した。

車がひっくり返ったらあの青年はどうなつたらう。無謀運転するから罰が当たつたのだらうか、等と思いつつ田舎道を仙台に向かった。

あれから四、五年になるが、あの型の軽自動車には三回、町を走っていて見かけただけである。信じられない事だが真実である。